



石岡の風景⑥ 龍神山頂からの石岡市街



▲大宅壮一ノンフィクション賞受賞作家の吉永みち子さんを迎えて、対談は子育てや生活環境などについての興味深いエピソードが語られました。

## 市報いしかわ四百号記念対談

## 理想のまちと子供たち

エッセイスト 吉永みち子 VS 石岡市長 山本吉蔵

石岡に押し寄せる都市化の波。本当の理想のまちの姿とは？

そして、子育てにふさわしい生活環境とは？

今回は四百号の記念企画として、大宅壮一ノンフィクション賞を受賞したエッセイスト・吉永みち子さんを迎えての対談をお贈りします。

東京で一線級の競馬記者として活躍し、結婚を機に茨城の田園地帯・美浦村に移り住んだ吉永さん。この対談では、市長が描く新しい石岡のまちづくりを披露しながら、子育てと生活環境をテーマに四児の母であり騎手の女房である吉永さんに語っていただきました。

## 子供を叱るには一貫性が必要！

山本 吉永さんの著書を見まして私が感じたことですが、ご主人・吉永正人さんの騎手生活を目の辺りに見てきて、騎手のロマンはどんなところにあるのでしょうか？

吉永 競馬馬は生まれた瞬間から人間が祈るように育ててます。その馬を馬主さんが何千万何億円という値段で買ってくる。その上に調教師や厩務員とかいて、さらに騎手がたずなを持って走らせる。生き物である馬の感情にうまく自分の感情を合わせる。それが合わない場合は、いくら馬に能力があっても騎手に能力があってもレースが思うように展開していきません。

騎手のロマンは、やはり機械ではない生き物が自分と共に競技を展開するという点にあると思います。

鞍上（あなうへ）に人なし、鞍下（あなした）に馬なし、といわれますが、その境地になったとき人間の技量も格段に進歩し、馬もとんでもない能力を発揮します。

そこに、外部の機械的なもの・構造的なものの、制度的なものを越える一瞬があります。その一瞬に賭ける気持ちが、常に新しいロマンを生み続けるのだらうと思います。

山本 分かりました。なるほど、その辺に騎手としての難しさ・辛さというものも出てくるんですね。

生き物が走ることは、天候とか健康状態とか調教師・騎手、その他の環境が整わないことには勝てないでしょう。その整った中でも勝負はどうなるか分からないという要素があるようですね。

私、動物が好きなんです。馬に限らず犬でも野性の動物でも。その動物が全力疾走する姿は、本当に綺麗だと思えます。

かつて香港のマカオへ行ったら、ドッグレースをちらっとのぞいたんです。犬はもとと好きですが、必死に走る姿は美しいものでした。足の長いサラブレッドの姿も素晴らしいですね。

競馬といえば、競馬評論をしていた作家の虫明華呂無とは早稲田の予科で一緒でした。で、そのときのエピソードですが、フランス語をフランス人の女性講師に教わっていたんです。彼女は後に戦争



**吉永みち子** — よしながみち子。昭和二十五年三月十二日生まれ。三十八歳。埼玉県川口市に生まれ育ち、九歳で父と死別。下宿屋を経営する母を支えながら、浦和第一女子高校、東京外国語大学インドネシア語学科に入学。学園闘争によって、大学がロックアウトされた時期、偶然にも競馬に誘われその日から競馬の世界に熱中する。卒業後、競馬専門紙「勝馬」の記者を経て「日刊ゲンダイ」の競馬記者となり、昭和五十二年取材中に知り合った吉永正人騎手と結婚。翌年退社し美浦トレーニングセンターのある茨城県美浦村に移り住む。昭和五十八年、優駿エッセイ賞を受賞。昭和六十年には「気がつけば騎手の女房」で第16回大宅壮一ノンフィクション賞を受賞。現在は、エッセイストとして雑誌・テレビなどで活躍中。

二冊目の著書「気がつけば三十なかば」では、騎手の女房から一転して、二男二女の母としての人間味あふれる小気味良いエッセイを綴っている。

で引き上げましたが、学生のときに虫明と二人で彼女の育てて目の辺りに見ました。彼女は自分の二人の男の子に対して、非常に厳しい子育てをしていました。幼稚園児ぐらいの男の子は、夜九時になると二階の子供部屋へ行ったらばと寝てしまう。

さらに、自分でやれることは必ず自分でやらせる。シャツを着る・靴ひもを結ぶ、それをできるまでじっと見ている。あの厳しさは日本のお母さんにはないように思えます。自分の子育てはもう忘れてしまいましたが、自分の娘たちの子育てでは、どうも感情で子供を叱っているようですね。自分がイライラしているときに怒っています。気分が良いときには、必要以上に甘やかしています。

吉永 やはり、父親と違い母親は一日中子供と接しているの、段階余裕がなくなると感情に任せることが多くなります。同じことをしてもあるときは怒られ、あるときは誉められる。

私のところで、一番の子供があるとき味噌汁を運んでくれたんです。とても助かりましたので、いい子いい子と誉めたのですが、そのときには時間的余裕がありました。ところが何日後で彼の方がもっと誉めてもらおうとまた味噌汁を運ぶと申し入れたのです。

そのときまたまた運悪く、人が来たり電話があったりで余裕がなくイライラしていました。そんな状況の中、彼が味噌汁をこぼしてしまっただけです。

「なんて余計なことするの！」と私の口から出てしまいました。これはある意味では親の生の感情です。

それで子供はむっとする。何で誉められたことが、今日は怒られるんだと。同じことを同じ誠意と熱意を持ってやったにもかかわらず、またまたこぼしてこぼしてしまっただけ。そんな気持ちが積み重なっていくうちに、子供が親に対する不信感を持つわけです。親に一貫性がないのです。

後で一番嫌な思いをするのが親です。何であのとき冷静になれなかったのかと。

次の日、子供に謝るのはみっともないけれど、あのとき悪かったね」と必ず一言いい添えておかなければなりません。そうしないと、いざ自分が本当に怒ったときにその一貫性のなさゆえに、子供が受け入れてくれない状況になってくるんですよ。

(次ページに続く)



# 自分を見つめて ふるさと再発見

山本 その点は私も感じていることです。しつけに一貫性がなく、ということ、非常に気になることです。感情で怒ったときは、後で取り消した方がよいと思います。

子育てというのは、年齢が思春期に近づいてくるとさらに微妙になってくると思いますが？

吉永 うちは子供の年齢層が広く、上は十九歳から下は小学校の一年生まで。ですから上と下の要求が違っています。小さな子が望んでいることを上の子にしていると、それが非常にうっとうしかったりで調整が難しい。

今、中学生や高校生は親の言うことをきかないとか断絶があるとか、難しくなっているのでしょうか。今の親は、子供が成長するスピードについていけなくて、取り残されている部分というのがすごくあるんです。

今は習い事をさせてくれるとか、良いものを着せてくれるとか豊富に愛情を注いでくれますが、何よりの愛情とは子供が悩んでいることとか分からないことを親に話せる環境を作っておくことだと思っています。話したら分かってくれるのではないかと、分からなくても何かのコミュニケーションが生まれるのではないかと。そういう人間関係を築くのが親の役目ではないでしょうか。

子供が十八歳になって、自分の異性問題や進路のことを、どうせ話したって分かりやしないよ、この人は「と」った状況にしてしまっている、親にとって最大の意慢です。

山本 親に相談してもダメだ、親の言っていることは自分の本心とは違うんだというように環境づくりをしないように、いつでも何の話でもできる受け入れ体制を作っておくべきだということですね。

環境といえば、都会の環境と田舎の環境には大きな相違があると思います。吉永さんは、都会から茨城の美浦という田園地区に移られた経験から、子供の教育にふさわしい理想の環境とはどういったものだと思いますか？

吉永 都会の子は可哀相だとよく言いますが、それは主に田舎から

ではなく都会の人間から出てきています。

その言葉を聞いてふと思うのは犬の話です。東京の犬は吠えちゃいけないので声を出さずいたり、家の中で飼われたりして生きています。犬になぜ洋服を着せるのかという、都市では冷暖房が完備されていて、人間にとって快適な生活は結局犬には快適じゃない。それを補うために洋服を着せる。

で、その犬を愛する飼い主はいいけれど、犬が可哀相だといったら都会で生きている犬はどうしたらいいのかわかる。

人間にしても、あのひどい通勤ラッシュを乗り越えて会社に行っている。端から見ても人間で可哀相だといっても、それを止めたら生きていけません。だから、片方に理想があるからといって、その理想から外れた部分だけを見つめては、あまり良いものは生まれてこないでしょうね。

例えば、都会から田舎に越してきたときに感激しますよね。そりゃあ、今までにないものがたくさん手に入るんですから。

今カントリーライフというものが流行りだして、みんな田舎へ田舎へと行くでしょう。田舎の暮らしこそ豊かですばらしく東京は貧困だという発想からですね。

しかし、どれだけ田舎の暮らしを受け止めるかというと、最初の旅人感覚の間が楽しいわけですが、そこに慣れてきたとき本場の田舎暮らしに向かうのです。私がこつちに来たときも、空気がとにかくおいしい。洋服が汚れないし匂いがつかない。日当たりが良く何かボサッとしていられる。まったく自分の違う面がウフッと開け、日々是れ感動という日が何年も続きました。

その後、やはり忘れてきたものを思い出しますね。ここになくて都会にあったものを……。そこから一種の倦怠期が始まります。何の刺激もなく息苦しい。今まではひよいと自転車で行けば何でもすぐ手に入ったのに、それができない。

そんなことで、今まで感動だと思ったものが全然感動じゃなく、苦痛になってくる時期があるわけです。

けれども、住環境というのは飛び出せません。そこで、自分がどう暮らしたいかという思いが湧くと、自分自身を見つめていかなければならない一番きつい時期がやってきます。

そこを過ぎて、一つの悟りと再発見に至るわけです。本当の田舎暮らしの良さは、そこで得るような気がします。

私自身そこあたりですね、十年にして(笑)。

山本 そういう意味からも、石岡は東京まで車で約一時間、県道である水戸へも約三十分で行けます。交通の便・立地条件も良く、落ち着いた住みやすい場所と私は感じています。

今、住宅都市整備公団がやっているフローラルシティ南台が、大変申し込み者が殺到して、抽選で入居者を決めている状態です。

カントリーライフを楽しみながら、東京へお芝居も音楽会も、友人の結婚式に日帰りで行けるという立地条件でニュータウン造りをやっています。



▲今年の秋に街びらきが予定されているフローラルシティの街路も、花や樹木で美しく飾られています。

## 森を育て歴史を 残した街づくり

吉永 通勤圏になってくると、石岡の変化もこれまでのスピードとこれからの数十年とは違ってくると思います。おそらく人口の増加と外部から様々な要素が流入してくるでしょう。

山本 南台は完成すれば、居住人口八千人・七十四ヘクタールという大変大きな街が出現します。東京のように高層のマンションでなく、一戸ずつ土地と家を持ち東京へも通える街です。

ですから、石岡でもフローラルシティという名に負けないよう、まちぐるみで緑を多くしよう。花を植よう。木を大切にしよう。と一生涯懸命努力しているんです。

さらに石岡は、大化の改新直後に常陸国の国府が置かれた由緒ある土地なのです。

吉永 西暦六四五年ですね！

山本 良く憶えていますね(笑)。その時点で関東の中心的都市であったわけですから、古いものがたくさんあり地下を掘っても色々出てくる。

そんな歴史的背景を残しながら、住み良い人口十万人の街を築いていきたいというのが私の構想なのです。

古いまちらしく森を育て、木をもっとと植えていこう。吉永 都市化の波といいますが、ここは良いところだと目を付けられ、非常に暴力的な開発が押し寄せます。それを押さえていかないと、あつという間に自然環境や歴史的環境が、便利さ便利さに置き換えられてしまいます。そのときには皆飛び付きませんが、あとで木がなくなつた花がなくなつたといっても取り戻せなくなるんです。

ビジョンという大きな遠大な考えに基づいたものがないと、都市化の波は良さを壊して押し寄せてきます。

山本 私は二十一世紀の石岡を見られるかどうか分かりませんが、二十一世紀を理想とするには今基礎づくりをしなくちゃならないと燃えているつもりなんです。

ヨーロッパの古い街では、言い伝えのある名物の木がたくさんあるんですよ。その木に触って愛情を言えば結ばれるとか、必ずヒストリーがあるんですね。石岡は歴史的名木がたくさんあるのにどれくらい大切にしているのか。かけがえのない歴史の遺産や自然環境を大切にしながら、潤いのあるまちづくりを進めたいのです。

吉永 難しい需要でしょうね。今の風潮は、すぐ手応えのあるものには飛び付きがち……。そこいらが、次代を担う人たちの感性とか教育とかに関わっているんじゃないでしょうか。

今の小学生をこらになつて、市長さんどうお感じになります。

## 生き物の多い環境 で知る命の大切さ

山本 新聞紙上をにぎわしている「いじめ」やその同類の事件は、昨日今日の問題ではなく昔からあったと思います。

昔はガキ大将がいて、兵隊ごっこや泥棒巡査、野原を駆け回った。塀の上を歩いたりして大きくなった。それはある意味では、社会規範だった。

しかし、今はそういったものに対する反発があるんじゃないか。吉永 私たちの時代にも、当然いじめはありましたが、今は一種異様な形で現われ、我々が考えのつかない方法をとっていくんです。

昔は人間の社会でも子供の社会でも暗黙のルールがあつて、絶対にその人間の境地に踏み込むことは、子供でもやらなかつたものです。今、子供たちがそれを越えてしまっている、どこか麻痺したものが、子供の社会にも影を落としているんじゃないでしょうか。

山本 最近ではテレビでも漫画でも「殺してやる」といったどぎつい表現が氾濫している。

小さい子供が遊びながら「殺してやる」とか「ぶった斬る」と平気で言っているのがよくあると、と驚かれています。

吉永 戦争の時代には殺す・死ぬという言葉には現実感がありました。現実問題として、戦場で殺し合いがあつた時代に、なぜ人の心が今ほど乾かなくなつたのか……。

というの、周囲の目に見えるものの広がりとか温かさとかが強く関係していると思うのです。

学校で暴力事件とか自殺があると、友達の大切さとか命の大切さを教えていますと学校の先生は言います。けれど、じゃあ命の大切さはどうやって教えられるのだからって考えちゃうんです。言葉で「お前、命は大事だよ」といったところで、それが本当に分かつたら事件は起きないですね。

それは、住んでいる環境に生き物が圧倒的にいないからだだと思います。人間は多くても、本当の意味での人間環境ができていない。

しかも、昔はおじいちゃん・おばあちゃんと家族として住んでいて、猫や犬がいたり人間の出入りが多かった。否応なしに死に向かいあつていて、その中で「ああ生きていく」と感じる環境でしたが今は核家族になつてそんなことも少ない。

犬を飼えない状況とか、飼おうとしてもこのごろのお母さんは、(次ページに続く)





▲「私たちが住んでいる環境に生き物が圧倒的にいないから、本当の意味の命の大切さが子供たちに教えずらいのです」と吉永さんの鋭い指摘に市長も大きくうなずきます。

「飼って死んじゃったかどうかの、死んだら可哀相でしょ」と言って犬を飼わせない。猫も毛が散るからと飼わせない。外に目を向けると樹があるわけでもない。大きな木があれば、必然的に鳥が来て巣を作る。その巣から落ちてきた鳥が下で死んでいたり色々々があるんです。生き物がいっぱいいることは、死がいっぱいあることです。家族が多ければその死に面と向かうわけで、それがいいという逆は不幸なことでもあるんです。カエルの死体とかヘビがひかれてる——そんな場面に直面したとき、親は子供に隠してはいけないうるがします。生物が身近にいたり動物が死んでいたり、そんな住環境が都会にはない。私が茨城に住んで嬉しかったのは、そんなことがなかったことです。うちの屋根からしょっちゅうスズメが落ちてくるんです。春先になるとトイがワラくずでつまって水があふれたり……。そうすると子供は仕事が増えるわけですよ。フンを洗い流したり、つまったトイをなおしたりで。

## 子供たちはもっと自然と遊ぶべき

吉永 私の長男はスポーツ少年団の乗馬員をやっていますが、そこでも殺生の対象になってしまっている馬がいます。昨日までいた馬が次の日にはいないんです。馬がどういふ運命をたどったかは子供は知っています。殺されちゃったんだと寂しがりやです。それで、生きていく馬に対するより大きな優しさが育つ。昔はまちに馬がいっぱいいました。馬がいたときにはフンは汚いものではなく、誰もが踏んで歩いていました。それを汚いと思うようになってから、馬の役目は全部なくなりました。各駅には自動車からの郵便物を運ぶ馬がいたり、日本通運などでは馬を飼っていましたが、それがあつという間に十分の一に減ってしまい、今や日本には競争馬しかいません。私たちが馬の仕事全部奪い取ってしまったから、競争馬として働けなくなつたときに次に生きる道がなくなつていくのです。山本 不思議に思うのですが、競争馬が足をケガすると殺してしまうのはどうしてですか？

吉永 足一本でと皆さん思いますが、サラブレッドというのは走るために生まれてきた動物なんです。馬の足は人間とは違う重さがあるんですね。テンポイントという馬がいて、とてもきれいで非常にファンが多かったです。その馬が骨折して、もうすぐ安楽死処分しなければならなくなりました。馬の場合、痛みが気が狂ってしまう場合がある。それから足を折った馬は余命をいつぱい併発する。大きな凶体ですから寝ちゃった横になつてしまふので吊して支えるんです。するとどうしても足に血が下がってきて、帝王炎という蹄の中がくさる病気になる。

そうなるのを完全に助からないんです。これは自然に死んでしまいます。人間がギブスをはめて治すのとは、訳が違います。サラブレッドが命にかかわる足を折ったときは、生き延びることは不可能です。テンポイントは、結局三十日生きていましたが、帝王炎になって死んでしまいました。日本でも乗馬を習わすというのは、日曜日に綺麗なお帽子をかぶって乗馬ファッションを楽しんで、そうして馬にのつて帰ってくる。馬とつきあうというのはそうじゃなくて、身体をブラッシングするとどんな表情をするのか、どんなときに後足を蹴るのか・耳を倒して恐がるのか。どんなときにフガフガと笑うのか。馬の足を持って洗ってあげる、カイパをつけてあげる。寝ワラとはどんな匂いがするのだろうか。そういうことまで含めて乗馬というのがなければいけません。そのときに始めて生き物との付き合いができるし、それが大きな優しさとか心の財産になるんじゃないかな。今、子供が馬に触った経験があるかといったら中々ありません。この間、取材である動物プロダクションへ行ったら、「今どきの子供は馬に肉をあげるのよ」とその奥さんが呆れていました。逆にライオンに果物をやったりする子供もいるそうです。これはいくらファミコンが巧くても、色々な情報を知っていても一番基本の部分が抜けているんじゃないかな。いかに子供たちが、自然環境とか生き物の環境から隔離されて生きていく！このままでは不幸なんじゃないかなという気がしますね。山本 それは馬と子供たちのエピソードでしょうか、人生一般にあてはまるお話です。石岡の豊かな自然環境の中で、いつそ歴史的環境や生き物とかかわりあいを大切にしたまちづくりをすすめてはと認識が深まりました。大変良い話しをうかがいました。ありがとうございます。



▲龍神山のふもとに建設中の生涯学習の里は、2年後のオープンに向けて着々と整備が進んでいます。

## サクラのてんぐ巣病に注意！

サクラは、毎年春になると美しい花で人々をなごませてくれます。しかし、最近特に「てんぐ巣」病の症状をあらわしたサクラが見受けられるようになりました。この「てんぐ巣」病にかかると、葉だけの細かい枝が密集し、やがてサクラ本来の美しい花が咲かなくなってしまいます。この「てんぐ巣」病は、一種のピールスのようなもので媒介しますが、現在速効的な防除手段はありません。もし、「てんぐ巣」病の症状を発見したら、その枝を切り取り焼却処分してください。美しい大切なサクラを守るため皆様のご協力をお願いします。詳しくは、市役所商工観光課へ。☎3-1111内線171



## 7/14 動く市政教室

行政を市民の皆さんに理解してもらうため、「動く市政教室」を実施します。市役所をスタートに、フローラルシティ南台、彦市山・八軒向区画整理記念会館、石岡市医師会病院などの施設を見て回ります。昼食時には、市長と語りあうコーナーも設けられています。

- 7月14日(木) 午前8時50分市役所集合
- 市内に住んでいる方なら誰でも参加できます。(参加費無料)
- 市役所のバスで巡回します。
- 参加者人員は40名です。
- 昼食は各自持参してください。
- 参加申し込みは7月9日までに、市役所広報広聴係(☎3-1111内線212)へ。

※「市政を10倍知る」ために奮って参加ください。





# 龍神山へのラブコール



▲龍神山森林公園の遊歩道は、樹々に囲まれた涼しげな空間。野鳥のさえずりがあちこちから聞こえました。

## 山、木あるを 以て貴しとす

テレビ子やデイスニー坊やに郷土の自然守れない真つ二つに分断されている龍神山を眺めるにつけ計り知れない淋しさを感じます。

二十八年前の昭和三十五年、五五〇万円で砕石会社を買ってしまった龍神山。ロシアがアラスカをたつた七二〇万ドルで売り渡してしまった後悔と同じ重さに例えたならば、余りにも大げさな表現と笑われるでしょうか。

今、石岡を離れている人ばかりでなく、地元民にとつて小学校の遠足の地として親しんだこの山は、ふるさとに売却したお金で、市の発展・教育などにどんなにか大きな役割を果たし、現在に至っているかは疑う余地はありません。さらに市の財源獲得の方法として最善であったのか、安易に評価はできませんが、今もう一度冷静に見つめ直してみたいと思います。

山高きが故に貴からず、木あるを以て貴しとす。

まさにしかり、茨城の意志なす台地・石岡の北西、海拔二〇九・六メートルの龍神山の姿がそうでした。石岡唯一の展望台として、霞ヶ浦はもろろん利根川や呼べばこたえる筑波の連山が手に取るように見え、晴天の日は富士山をも見ることができたといえます。

今はもうこれを望むことはできません。辛うじて村上側の山頂にある岩層、村上佐志能神社の御神体といわれる「大岩」から石岡市を一望できる程度なのです。

この大岩に上る途中の大樹の若葉にも、密生する雑木にも砕石の粉塵が舞い降り、何となく白っぽく感じられます。周辺に住む方たちへの影響と保障はと暗い気持ちになってきます。

春は桜・ツツジ、秋には紅葉それらを静かに聴き入った野鳥のさえずりは、砕石音に変わっています。

ふもと周辺のすりばち山・鬼越峠への案内標識もボロボロに朽ち、龍神山への懺悔のごとく



歴史に興味を持ち始めた地元の小中学生にも、教科書の知識ばかりでなく自分の目でしっかりと発掘現場見学体験学習をさせてあげたいものです。本物が証明する歴史の重みを学ばせることができたならどんなにかすばらしいでしょう。私の夢はほとんど広がってゆくようです。

二年前にオープンする「生涯学習の里」建設のため現在発掘調査が行われている南麓の麦畑・桑畑の宮平遺跡には、縄文土器の破片がゴロゴロころがっていました。こんな身近なところで、思いもよらず古代人と接触できた錯覚すら覚えます。

自然保護には  
市民の暖かい  
心がなければ

このように何千年も私たちの祖先と関わりを持ち、原始からの人々の守護神として、村上・染谷に二つの龍神の社を祭るこの歴史的山。市の持ちものであるという理由で、二十世紀後半に存在した一行政が、財源のため勝手に処分したり破壊したりする権利はないはず。民間のものでなく、幸い市所有のものであるのなら、目先のことを犠牲にしても保存しなければならなかったのではと怒りさえ覚えます。



▲波付岩の高みに上ると、石岡の市街地や筑波連山の山並が一望のもとに眺めることができます。

今、都会では緑を守り育て増やしていこうという潮流の中、自然に恵まれた私たちは、田園の匂いより文化の香りのする開発事業に目を奪われ、歴史的遺産や自然環境に無関心になりすぎてはいませんか。

奈良時代の鹿の子遺跡の上を高速道路が走り、縄文初期の大谷津の遺跡調査・発掘も早々に切り上げ、南台開発が急ピッチで進められてきました。自然も史跡も由緒あるものは大切に守らなければなりません。

止むを得ない場合には、その保存方法に万全を期さねばならないのに、行政に任せっきりの私たちの無知・無関心が、後世の人々に無意識の汚点を残すことになりはしないでしょうか。

龍神山は今、運命の岐路に立っている。そして差し伸べてくれる市民の暖かい手待っている。

これは昭和四十四年、石岡史跡保存会が石岡市郷土資料二十九号で訴えた言葉である。

その後二十年経った現在に至っても何の対策もありません。今後三十年間にわたって砕石は続けられるといえます。

えぐり取られた山肌が示すように、歴史的環境は一度失ったら取り戻せない、その回復はほとんど不可能なのです。石岡に住みながら、龍神山に何の愛着もなく、名前や場所その存在すら知らない新しい住民が増え、現在、今こそ同じ過ちを繰り返さないために、すべての石岡市民が龍神山を直視し、逆作用の教育材料として、また生きた歴史材料として活かしていかなければなりません。

肥沃な土地に豊かな作物が実るように、自然と歴史的環境が適切な保存方法によって大切に愛情深く守られた郷土には、豊かな心が育つてゆきます。

そこに培われた貴重な精神は歴史的な文化遺産として、私たちの子孫と共に、悠久に受け継がれていくことでしょう。

## 市議会第三回臨時会

昭和63年市議会第三回臨時会が、5月20日市議場で開催。議長に小池清氏、副議長に金井一夫氏が選ばれ、上程された市税条例の一部改正案など4議案が決まりました。



議長(24代目)  
●小池 清氏(53)  
現・総務委員会委員



副議長(23代目)  
●金井一夫氏(46)  
現・建設委員会委員

## ヤング・インタビュー ひまわり談話室 (52)

宮 和江(20) 若宮3-8 土浦のピアタウンに勤める和江さんの出勤時刻は、朝の十時ごろ。約四十分で職場に着き、自分が担当するボス(レジ)の前に立つのが十一時。

「仕事については？」

「私の場合、今年の三月からこのピアタウンに配属されています。その以前は、羽鳥のカスマであまり忙しくなかったのですが、ピアタウンは凄く忙しくてやりがいのあるところなんです。」

「レジではお客さまに笑顔であいさつ、目ではほほえむように」と教えられているだけに、実際の接客には難しい部分があります。

「趣味・特技については？」

「車は赤のファミリアに乗っていますが、ドライブをしながら土浦・水戸・つくばへショッピンを楽しんでいます。音楽は、デイスコミュジックや歌謡曲・ポップスを中心に、もっとがって聴いています。」

「街のどこかに人を見張るような斬新なものが欲しいですね。身近なところでは、尼寺カ原の公園を、もう少し気軽に有効に利用できるような雰囲気にしてもらいたいです。そして、石岡らしさを失わない発展を期待します。」







▲ “子ども会スポーツの集い” が盛大に開催 (5月15日)

市子ども会育成連合会(鈴木達会長)主催による第19回子ども会スポーツの集いが5月15日石岡小学校校庭で開かれました。今回は石子連発足25周年記念事業ということもあり例年以上の盛り上がりを見せ、集まった大勢のお父さんお母さんは子どもたちに大声援を送っていました。



▼地域のコミュニケーションはスポーツに限ります (六軒東区)

第3回六軒東区(高崎徳雄区長)体育祭が5月29日盛大に開かれました。体育祭には地域の子供たちからお年寄りまで約350人が参加。○×ゲームや水玉風船親子受け渡し競争など11種目に全員が出場し、初夏の1日を楽しく過ごしました。



5月29日、フローラルシティー南台で合同地鎮祭。南台で合同地鎮祭がとり行われました。これは、今年秋建物付建地分譲で全29区画が売り出されるもの。南台駅(仮称)も同時にオープン予定で街びらきと合わせ南台は大きく変わろうとしています。

## まちの できごと

●スポーツ真っ盛りの6P●

▲愛鳥週間にちなんだ巣箱掛け (関川小)  
関川小学校(遠藤良雄校長)で5月11日、六年生の子供たち全員が校庭内にあるサクラ・イチヨウ・ケヤキなどの樹木に巣箱を掛けました。これは愛鳥週間にちなんだ子供たちが自宅などで製作した手作り巣箱で小鳥さんたちは優しい心配りにピーチクパーチク。



▲市内全域で清掃作戦

環境週間の始まった6月5日、市内全域で大清掃が行われました。これは“美しい石岡を作る市民の会”(桜井忠一会長)が主体になって約300人の市民が参加し、6号国道など主要道路を中心に空き缶類などを拾い集めました。当日はガールスカウトのかわい子子供たちが6号国道交差点で行き交うドライバーにノーボイ運動のチラシを配り協力を呼びかけました。



7月2日、土浦市立博物館オープン！  
隣まちのニュースで大変恐縮ですが、7月2日(8月21日まで)近世土浦の名宝展が一般公開されます。亀城公園の近くに建った白亜の殿堂。これに負けない施設を歴史の里石岡でも、ぜひ欲しいですね。  
02668-24-2626

### 俳句の部

東光台二 塚本 光子  
藤の花白衣は老いを見せざりき  
大谷津 大関 ひさ  
目にみえて刻の流る野の五月  
大谷津 海老沢ふみ  
手鏡の新樹に呼ばれ立ち上る  
国府四 大場 和子  
遊蝶花こわれし玩具りと鳴る  
大谷津 海老沢明子  
雨音に春眼をまた誘はるる

### 文芸いしおか

英城二 伊藤 善行  
新緑の村ふくらます新校舎  
若松一 広瀬 志ず  
桐の花仰げば空のシャンドリヤ  
▼俳諧の部 題「若布」「蛙」  
北府中三 大和田規美子  
幼なじみの情けが届く  
磯の香が立つ新若布  
国府六 高野 里声  
郷里の香りが届いた夕餉  
母を偲んで若布汁  
若宮一 石毛 芦影

浜の詠りで売り娘が運ぶ  
汐の香りの新若布  
若宮三 今川志げ野  
蛙で一服田打ちの父に  
運ぶ女房の熱いお茶  
上田 御城  
蛙でシートを広げて手真似  
お八つ知らせる田植え時  
北府中二 長島五十路  
老いたからとて鉄とる手には  
狂い見せない蛙づくり

▼短歌の部 若松二 三輪 昂  
青柳の枝垂るる影をうつしある  
水田に蛙の群れてうたへり  
泉 町 藤岡みつ子  
エプロンの姿をちこち病室の  
窓辺に忙し連休の朝  
井 関 田口 房子  
こだまして聞えし掛矢の音止みて  
棟上りたり五色旗立つ  
東光台一 岩崎 登代  
磐城たいらの朝日に葉毛光りつつ  
競走馬は欄に浴み待てり  
春蘭けし真昼の林小鳥らの  
歓喜に満ちる如きさへづり

## ぼくらの名物先生

42

●三村小学校 黒沢照代先生(29)  
「明るく活発で、教育熱心です。若い先生にはめずらしいくらい、子供たちに情熱を持って学習指導にあたっています」と、黒沢先生を評してくれたのは磯山邦良校長先生。  
牛久市立岡田小学校から三村小学校に赴任して3年目の黒沢先生は、バドミントン・スキー編み物と趣味多探の持ち主。



岡田小学校時代に、大恋愛の末結ばれた一ツ年上の御主人と、去年新婚旅行を兼ねてカナダへスキーに行き、愛のシブールを描いてきたという熱々カップル。理科が専門で、六年生三十二名の良き指導者。「体がとても柔らかく、スポ

るんです」と滝口佳代子さん。斉藤久幸君は「とにかく宿題の先生なんだヨ。毎日のように算数の練習や国語など家庭学習がいっぱい出るんだ」としかめ顔。「明るくて、とてもよいきんな先生」と斉藤千恵子さん。



# くらしのガイド

## 5月の市内交通事故

|              |         |
|--------------|---------|
| 発生件数         | 24(116) |
| 死者           | 0(1)    |
| 傷者           | 30(134) |
| ( )内は1月からの累計 |         |

★市役所 ☎3-1111 ★市民会館 ☎2-5187 ★テレホンサービス ☎3-3333

## 休日・夜間緊急診療

●休日受付 午前9時～午後3時30分 ●夜間受付 午後7時～10時30分まで

| 月  | 日      | 産婦人科                  | 外科                    | 内科・小児科<br>歯科<br>(午前11時30分まで)                                         |
|----|--------|-----------------------|-----------------------|----------------------------------------------------------------------|
| 6月 | 26日(日) | 富田産婦人科医院<br>☎(3)-0311 | 滝田整形外科病院<br>☎(3)-2071 |                                                                      |
|    | 3日(日)  | 松葉病院<br>☎(3)-2157     | 山王台病院<br>☎(6)-3130    |                                                                      |
| 7月 | 10日(日) | 富田産婦人科医院<br>☎(3)-0311 | 斉藤病院<br>☎(6)-2131     | 夜間<br>(内科・小児科)<br>7月2日・3日・9日<br>・10日・16日・17日<br>・23日・24日・30日<br>・31日 |
|    | 17日(日) | 桧山医院<br>☎(6)-3812     | 青木医院<br>☎(3)-0221     |                                                                      |
|    | 24日(日) | 飯田医院<br>☎(2)-2268     | 石岡市医師会病院<br>☎(2)-4321 | メディカルセンター<br>杉並2-1<br>☎4-1386                                        |
|    | 31日(日) | 富田産婦人科医院<br>☎(3)-0311 | 同愛病院<br>☎(2)-2261     |                                                                      |

## ふるさと 散歩道 66

### 守木の森の 金刀比羅神社

月の十日は金刀比羅さまよ  
さアさ行きましょお詣りに  
とうたわれた守木の金刀比羅  
神社。国府六丁目の大通りには  
高さ三丈余(約十メートル)の  
大きな鳥居が立っています。  
「御大禮記念」と刻まれた鳥  
居は、大正四年に大正天皇の御  
即位記念に、稲田産の花崗岩で  
建立されたものです。  
参道を少し入ると両側に石灯  
籠。左手には、イチヨウやクス  
の鮮やかな緑が目につきます。  
「この金刀比羅神社は、古く  
から守木または森木と呼ばれて  
きました。それと、記録によれ



▲こんぴら様の愛称で多くの人々に親しまれている  
金刀比羅神社の境内には、いくつもの石造物が奉  
納されています。

ば森木寺と八木寺という二つの  
寺が付属していました」と宮司  
の八城芳教さん(33)がその由  
来について教えてくれました。  
二つの寺は、天正十八年(一  
五九〇)に戦乱と兵火に巻き込  
まれ、ことごとく壊滅してしまっ  
たといわれています。  
現在の境内には、二月と十二  
月に針供養が行われる淡島神社  
と妻恋・仁平・御幸の三つの稲  
荷神社が奉られていました。  
かつて、この金刀比羅神社の  
入口には、素晴らしい三層の楼

門がありました。正式な名前は  
二天門、俗に法螺堂と呼ばれて  
いたそうです。神官が朝夕この  
楼門に立ち、三尺の法螺貝を吹  
き納めたので、この名がついた  
といわれています。果たして三尺(約  
九十センチ)の法螺貝が吹けた  
のかどうか、まさに法螺堂らし  
いエピソードです。  
二天門は、明治十一年の中町  
の大火で社殿と共に焼失してし  
まい、その姿を見た人はもうこ  
の世にはいません。明治十五年  
に神社は復興され、十二年後  
には総ビロ造りの本殿が新築。  
しかし昭和四年には、再び大火  
に遭い炎上。今の社殿は、昭和  
十一年に再建されたものです。  
主なる年中行事として、一月十  
日の初こんぴら大祭・十月十日  
の秋季大祭が行われています。  
守木の森に古くから鎮座する  
金刀比羅神社。境内に奉納され  
たいくつもの石造物には、石岡  
に生き石岡を愛した人々の名が  
何百と刻まれていました。

## 納期を忘れないでネ

| 6月                                     | 7月                           |
|----------------------------------------|------------------------------|
| 市県民税(4期)<br>国民健康<br>保険税(6期)<br>国民年金保険料 | 固定資産<br>都市計画税(2期)<br>国民年金保険料 |

おくやみ (四月届出)

小沢 さん 80 府中一  
上田 うめ 94 府中一

## こんにちは 赤ちゃん

●江ヶ崎 琢也くん(二歳八ヵ月)  
石川



●江ヶ崎 琢也くん(二歳八ヵ月)  
石川

両親の仕事の関係で、いつも  
遊び相手はおじいちゃん・おば  
あちゃんです。「パパはゴルフ  
で私が水泳と、我が家はスポー  
ツ家族なのでどんなスポーツで  
もいいから、心  
身鍛練の意味か  
ら何かやって  
欲しいですネ」  
とは母親の江ヶ  
崎しづ子さん(32)。  
世話やきのタ  
ーくんは、きま  
って多分になる  
と「ジージ」と  
おじいちゃんの大好きな酒とコッ  
プを用意して、はい！ドージョ。

|             |              |              |               |             |             |             |             |              |               |               |              |              |              |              |               |              |               |               |              |              |              |               |               |              |               |              |              |               |
|-------------|--------------|--------------|---------------|-------------|-------------|-------------|-------------|--------------|---------------|---------------|--------------|--------------|--------------|--------------|---------------|--------------|---------------|---------------|--------------|--------------|--------------|---------------|---------------|--------------|---------------|--------------|--------------|---------------|
| 川又 実 53 府中三 | 佐藤 かつ 94 府中四 | 窪田 ハナ 85 府中一 | 鬼沢 忠次郎 88 府中三 | 平野 誠 65 府中四 | 野口 章 87 府中五 | 福田 篤 71 府中七 | 谷島 篤 90 府中七 | 脇谷 美一 63 府中二 | 石崎 松次郎 76 府中二 | 大久保 いわ 87 府中二 | 野村 利恭 88 府中二 | 眞野 ふみ 77 府中二 | 花塚 ふみ 71 府中二 | 佐久 小姉 87 府中二 | 吉田 富一郎 62 府中二 | 細野 六郎 59 府中二 | 木間塚 はる 80 府中二 | 秋山 次郎吉 88 府中二 | 高野 孝次 85 府中二 | 鈴木 健次 59 府中二 | 魚野 ハル 82 府中二 | 小林 キミヨ 54 府中二 | 稲田 スミ子 41 府中二 | 岩田 春信 84 府中二 | 須賀田 のぶ 86 府中二 | 笠倉 正紀 72 府中二 | 杉目 将太 80 府中二 | 友部 徳次郎 82 府中二 |
|-------------|--------------|--------------|---------------|-------------|-------------|-------------|-------------|--------------|---------------|---------------|--------------|--------------|--------------|--------------|---------------|--------------|---------------|---------------|--------------|--------------|--------------|---------------|---------------|--------------|---------------|--------------|--------------|---------------|

|       |                |               |                      |                |              |           |             |           |                           |              |                        |       |                          |             |              |                     |
|-------|----------------|---------------|----------------------|----------------|--------------|-----------|-------------|-----------|---------------------------|--------------|------------------------|-------|--------------------------|-------------|--------------|---------------------|
| ★金銭の部 | 東地区公民館 四五、五二〇円 | 同好会一同 二〇、七〇〇円 | 石岡プラザホテ ル・山本 二〇、七〇〇円 | 仁平 とし子 一九、五六〇円 | 森沢 春吉 一、〇〇〇円 | 太田 緑 七二〇円 | 宮本 きよ子 一〇〇円 | 横田 きみ 三八円 | 石岡市大砂老人ラッ グ会長・岡野 寛 四、二六三元 | 大 吉 名 九、八二四円 | 水戸ヤクルト販 売・石岡支店 四一、六〇〇円 | ★物品の部 | 桜本プラスチック セラミックサボ ーター四七〇枚 | 成 昌 綾乃 衣料 品 | 佐藤 和子 手芸品十一品 | 田中 良枝 衣料品十二枚 紙オムツ一袋 |
|-------|----------------|---------------|----------------------|----------------|--------------|-----------|-------------|-----------|---------------------------|--------------|------------------------|-------|--------------------------|-------------|--------------|---------------------|

## 編集後記

おかげさまで、市報いしかおが  
四百号を迎えました。昭和二  
十九年五月の創刊号以来、三十  
四年間で延べ九人の担当者が編  
集に携わりました。  
創刊当時はB4判二ページ。  
情報過多の現在では夢のような  
紙面。ともあれ四百一号から初  
心に返ってどうぞいすこい。

## 健康相談

- 妊婦教室 メディカルセンター  
7月4日(月)・11日(月)・18日(月) 午後1時30分～4時
- リハビリテーション メディカルセンター  
7月1日(金)・8日(金)・15日(金)・22日(金)  
午後1時30分～午後3時30分
- 出張  
健康相談 7月1日(金) 石岡商工会議所  
7月5日(火) 城南地区公民館  
7月14日(水) 石岡市民会館  
7月21日(水) 東地区公民館  
7月28日(水) 府中地区公民館
- 市民健康相談 府中地区公民館  
毎週月・水・金曜日 午前10時～午後3時
- 健康教室 府中地区公民館  
7月28日(水) 午後1時30分～3時

## 赤ちゃん健診

- 3ヵ月児健診 メディカルセンター！病気の時は翌月に  
7月6日 午後1時～2時 対象：昭和63年3月出生児
- 10ヵ月児健診 メディカルセンター！  
7月13日 午後1時～2時 対象：昭和62年8月出生児
- 1歳6ヵ月児健診 メディカルセンター！  
7月20日 午後1時～2時 対象：昭和62年1月出生児
- へお子さんの歯ブラシをこ持参ください  
7月26日 午後1時～2時 対象：昭和60年6月出生児
- へお子さんの歯ブラシをこ持参ください

## 各種相談

- 精神衛生相談 石岡保健所 午後1時30分～3時30分  
7月11日(月)・25日(月) 専門の精神科医師
- 精神障害者デイケア事業 石岡保健所 ☎4-1335  
7月6日・13日・20日・27日 午前9時30分～
- 対象Ⅱ在宅精神障害者で年齢50歳未満の方で通院治療  
を受けている方。詳しくは石岡保健所へ連絡ください。

## 困り事

- 市民相談 毎週月曜・土曜 市役所市民相談室  
7月1日(金)・15日(金) 午前10時～午後3時
- 行政・登記相談  
7月14日(水) 午前10時～午後3時 市役所会議室
- 法律相談 市民相談室(予約は電話で行ってください)  
7月12日(火) 長谷川恒弘弁護士 午後1時～4時
- 交通事故相談 福祉会館 ☎2-2940  
7月15日(金) 午前10時～午後3時
- 国民年金・厚生年金相談 石岡商工会議所  
7月1日(金) 午前10時～午後2時30分
- 義肢・車いす器具等巡回修理 土浦市社会福祉センター  
7月20日(水) 午前9時30分～12時
- 高齢者無料職業紹介所 福祉会館(国府5-7-1)  
毎週月曜・土曜日
- 出張相談  
7月6日(水) 府中地区公民館 午前9時～午後3時  
7月20日(水) 東地区公民館 午前9時～午後3時  
7月27日(水) 城南地区公民館 午前9時～午後3時